

図書館だより 5月号

令和5年5月26日
万代高校図書館

寒暖差が激しくて、なかなか爽やかな初夏とはならないですが、体調を崩したりはしていませんか？

新年度がスタートして2か月ほど経ちました。図書館ではほぼ毎日、生徒の皆さんが本の返却・貸し出しに来てくれている姿が見られ、とても嬉しく思っています。例年以上に「学校図書館」としての役割が求められていることが感じられ、司書として身の引き締まる思いと同時に、それを上回る喜びをじんわり感じています。

勉強に勤しむ人、読書を楽しむ人、友達と過ごす人、ちょっと息抜きしたい人…いろいろな利用のかたちがありますが、全ての皆さんにとって居心地の良い「場」を用意したいと考えています。どなたもご遠慮なく！

おすすめの本の情報、リクエストや本選びの相談も増えていて、皆さんとそんな話ができるのも、とても嬉しいです。難しいお題での選書も、喜んでお手伝いします。カウンターを担当する図書委員も張り切っています。いつでもどうぞお気軽に、声をかけてくださいね。

図書館司書 楠



千の扉あけて

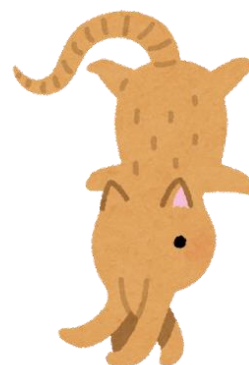
第22章

本の表紙を開いて最初に現れる、タイトルの書かれたページのことを「扉(とびら)」と呼びます。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉を開くこと。これから皆さんを、無数にある扉のひとつへのご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅した時、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。今回の「扉」は…

『鼻行類』

H・シュテュンブケ 著
平凡社

480
シ



地球上では、現在も数々の新種の生物が発見されています。私たちの知らない動物たちが、どこかに生息しているかもしれないと考えるとワクワクしますね。

皆さんは、1941年にハイアイアイ群島で発見された、鼻で歩行あるいは移動する小型哺乳類「鼻行類(びこうるい)」という動物たちを知っていますか？大きく発達した鼻で体を支え、時に鼻で飛び跳ねたり餌をとったりします。本書は、その発見に至る経緯や、観察されたその生態について、図版を多用しながら学術的に論じた研究書です。

あれれ？ご存じない、ですか？そんな島も、そんな動物も、見たことも聞いたこともない？それもそのはず、ハイアイアイ群島は某国の地下核実験が原因で、全ての生物が研究資料や写真、標本ともども、既に海底に没してしまっているのです…。

…信じるか信じないかはあなた次第、というジャンルの本ですが、いたって真面目な動物学の本です。1987年に日本語訳が出版された当時、大きな反響を呼んだ本書。フィクションではなく動物学の棚にありますので、数々の図版とその生態を、ぜひ読んでみてください。

それではまた、次の扉でお会いしましょう！



新刊 PICK UP !



『名探偵のままでいて』

小西マサテル 著 913 コ
宝島社



小学校教師の楓は、かつて小学校の校長だった祖父を敬愛していた。祖父は今、レビー小体型認知症を患い、会話が成り立たないこともしばしば。しかし楓が身の周りで起きた謎を話して聞かせると、いきいきと知性を取り戻し、名推理を展開する…。

.....

葉巻を一本嗜む間だけ、頭脳が冴えわたるという設定が、この名探偵の個性を際立たせています。カッコいいおじいちゃんの大活躍にじびれます。続編出ないかな、と私は既に期待しています。

ミステリー好きの人には、小ネタもふんだんにちりばめられていてたまらないと思います。ぜひ手に取ってみてください！

第21回このミステリーがすごい！大賞受賞作



『心をととのえるスヌーピー』

チャールズ・M・シュルツ 著 188 シ
谷川俊太郎 訳
枅野俊明 監修 光文社



ご存じ、漫画『ピーナッツ』のキャラクター、スヌーピーと仲間たち。作品の中に登場するたくさんの名言や名場面を、僧侶である枅野俊明さんが禅の言葉を添えて解説します。詩人・谷川俊太郎さんの名訳とともに、ほっと癒される言葉たちに触れてみてください。

気になるものがあったら借りてみてください！ リクエストもどうぞ。好きな本の話や、質問・相談など、いつでも待っています！

